

産業サイバーセキュリティ研究会 WG1 電力 SWG（第8回）議事要旨

日時 : 令和2年2月20日(木) 10時00～12時00分

出席者 :

- | | | |
|------|-------|------------------------------|
| (座長) | 渡辺 研司 | 名古屋工業大学大学院 |
| (委員) | 有村 浩一 | JPCERT/CC |
| | 稲垣 隆一 | 稲垣隆一法律事務所 |
| | 岩見 章示 | 電力 ISAC |
| | 大崎 人士 | 産業技術総合研究所 |
| | 大友 洋一 | 電気事業連合会 |
| | 桑名 利幸 | 情報処理推進機構 |
| | 新 誠一 | 電気通信大学大学院 |
| | 高倉 弘喜 | 国立情報学研究所 サイバーセキュリティ研究開発センター長 |
| | 都筑 秀明 | 日本電気協会 |
| | 新田 哲 | JFE ホールディングス株式会社 |

議題

1. 新規プレイヤーのサイバーセキュリティ対策について
2. その他（報告事項）

要旨

1. 新規プレイヤーのサイバーセキュリティ対策について

- (1) 「アンケート調査結果（全体版）について」を事務局より説明。
- (2) 自由討議
 - 得られた回答の分析と同様に、回答を得られなかった層の分析も重要である。
 - 回答を行うこと自体が難しいような事情が、特定の事業者属性と関連がある

ようであればフォローが必要というようなことも考えられる。

- ある対策が実施されていない場合に、他の回避策が講じられているかという視点で、他の設問から読み取れる情報がないか分析を行ってほしい。
- 事業者の対策実施状況に関する集計結果は、単純に実施率が高いか低いかで論ずることには慎重になるべきである。事業特性やシステム特性に応じた固有の事情は考慮すべきであろう。

➤ 回答者の解釈のずれも考慮すると、アンケート設問の工夫で対応できる範囲には限界があるだろう。個別の事情がある事業者へはヒアリングを実施することが最適ではないか。

(3) 「系統連系におけるセキュリティ要件について」を事務局より説明。

(4) 「太陽光発電システムの電力制御に係る通信ネットワーク」を日本電機工業会(JEMA)及び太陽光発電協会(JPEA)より説明。

(5) 「風力発電設備におけるサイバーセキュリティ対策について」を日本風力発電協会(JWPA)より説明。

(6) 自由討議

- サイバーセキュリティ対策に必要十分な地点というものはなく、クローズドな環境にあるシステムへの攻撃事例も実在している。一方で、コストの課題があることも理解している。有識者と事業者が協力しながら、必要な対策の検討を続けることが本会の主旨と理解している。

➤ 業界団体が自主的取り組みとしてガイドラインを制定している事実は、頼もしいことと思う。脅威や対策技術についての知見を交換しながら、より高みを目指していくという考えを共有したい。

➤ 再生可能エネルギー発電事業者も対策に十分という地点がないことは理解している。情報交換を行いながら検討を深めていきたい。

- 今後の検討を進める上では、各論以上に脅威の特定を行うべきである。特に、電力の安定供給という視点から、何を守るべきかという分析が重要と考える。

➤ 重要インフラの機能保証という観点から、電力供給のメカニズムを踏まえながら一定数の具体的な脅威シナリオを作成し、その際に必要な技術的対策、管理策を議論することで、より現実的な結果を得られるだろう。

➤ 個々の要素を守る事と同時に、個々の要素に異常が生じた際に、どう検知・判断を行うかも重要である。

- 本日提示した系統連系におけるセキュリティ要件は、事業の用に供しない発電設備の増加を受けて検討したものである。これを以って十分とするものではなく、継続的な改善を行うことを前提に、端緒の取組みとして提示した。本案を基に具体的な検討を進めることに意見はあるか。
 - まず取組みをはじめるということに異論はない。継続的な検討と改善は確実に実施する必要がある。
 - 対策要件案に異論はない。技術的対策を具体的に実装する方式については、各事業者や設備の実態を踏まえながら議論を深めさせて頂きたい。

2. その他（報告事項）

- (1) 「第1回電力サイバーセキュリティ対策会議について」を事務局より説明。

(以上)

お問い合わせ先

資源エネルギー庁 電力産業・市場室

電話：03-3501-1748